

敦賀2号の審査中断か

規制委 原電資料書き換え受け

原子力規制委員会は28日の定例会合で、敷地の地質データに関する資料の不適切な書き換えが判明した日本原子力発電敦賀原発2号機の審査中断を検討することを決めた。8月中に定例

会合で議論し、方針を決定する。この日の会合では、原電に対する検査を行い、書き換える経緯などを調べている規制委事務局の担当者が「資料作成において、膨大

なデータ処理に必要な業務管理が適切にできていなかったことが確認された」とする検査の途中経過を報告。地質の審査を担当する規制委の石渡明委員は「その状態が現在も当ではまるな

ら、審査を続けていいか非常に疑問だ。検査の本報告が出るまで審査は止めた方がいい」との見解を示した。更田豊志委員長は同日の記者会見で、石渡氏の意見が「非常に重要」と述べ、尊重する考えを示した。書き換えについて「説明性を上げるためだったのか、自らに有利な結論に導こうとポイントになる」と述べ、

目的の解明が焦点との認識を示した。問題では、敷地の掘削調査に関する資料にあった、肉眼による地層の観察結果に基づく記載が、顕微鏡によるものに無断で書き換えられていた。原電は「記載を充実させるためだった」と説明、改ざんの意図はないとしている。規制委が2020年2月に指摘し、資料の信頼性に

疑問が生じたとして審査を中断。原電が地質調査会社の元データを示したことから、同10月に再開を決めた。書き換え問題の検査は審査と別のチームが担当し、本店への立ち入りなどを進めている。敦賀2号機は原子炉建屋直下に活断層があると指摘され、再稼働を目指す原電が審査で断層の活動性を否定しようとしている。